

公表：平成31年3月25日

事業所名：特定非営利活動法人子ども館ゆめのたまご

| | No | チェック項目 | はい | どちらとも いいない | いいえ | 改善目標、工夫している点など |
|-------------|----|---|----|---------------|-----|---|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか | | ○ | | 既存の建物を利用している為、十分ではないが、手を加えて改善、工夫している。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切であるか | ○ | | | 常に定められた以上の職員を配置。 |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか | | ○ | | 十分ではないが、必要な事は努力している。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか | ○ | | | 全職員そろっての会議は多くないが、できる限り、話し合いの場を持つ・気づきのノート・ヒヤリハット等、認識の共有に努めたい。 |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか | ○ | | | 連絡ノート、お便り等、又、顔のみえる関係を大切にし、保護者の意向を把握している。周知に問題があるので、改善に努めたい。 |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか | ○ | | | 本年度より実施。 |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか | | | ○ | 実践に努めたい。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか | ○ | | | 研修はとても大切にとらえている。 |
| 適切な支援の提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか | ○ | | | デイサービス計画の話は連絡ノート、毎日の会話で伝えあっている。 |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか | | | ○ | |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っているか | ○ | | | |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか | | | | 子どもにあわせて常に工夫している。 |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか | ○ | | | 〃 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか | | | | 〃 |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか | ○ | | | その日の支援内容や役割分担、その他必ず確認している。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか | | ○ | | 必ずとは言えないが、(勤務体制等で)振り返りは大切なので、“なんでもノート”に記入し、全職員共有している。又、事前の打合せ、事後の総括はしている。 |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか | ○ | | | 必ずとっている。 |

| | | | | | | |
|--------------|----|--|---|---|---|---------------------------------|
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか | | ○ | | |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか | ○ | | | ガイドラインはとても大切なので、常に意識している。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか | | ○ | | その機会はあまりないが、ある時は参画している。 |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか | ○ | | | 学校とはうまく連携している。 |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか | | ○ | | 保護者を通して行っている。指示書はもちろんある。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか | ○ | | | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか | | | ○ | まだそのような事例はないが、その時は提供します。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか | ○ | | | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか | ○ | | | 家族支援の学童の子とは、常に交わりイベント等、活動を共にする。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか | ○ | | | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか | ○ | | | 連絡ノート、おむかえの時等でよく関わり、話をよくしている。 |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか | | ○ | | 研修を受けている職員もいるので、支援を行う用意はある。 |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか | ○ | | | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか | ○ | | | 日頃より、頻繁に行っている。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか | | ○ | | 父母の会はないが、イベントや講演会を共催するなどの支援はある。 |

| | | | | | | |
|---------|----|---|---|---|--|--|
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | ○ | | | 問題が生じた時は即対応している。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか | ○ | | | おたよりや感染症、避難訓練行事予定等、まめに発信している。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意しているか | ○ | | | |
| | 36 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか | ○ | | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか | ○ | | | イベント等に参加、又は招待する等行い、地域の方には大変よくしていただいている。 |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか | ○ | | | 毎年必ずお知らせを作り伝えている。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか | ○ | | | 年数回の訓練と年1回、市の危険管理室、消防署、近隣の方の参加で大がかりな訓練を行う。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか | ○ | | | 必ず職員は研修に参加し、常に意識している。 |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか | | ○ | | 今までそのような利用者はいなかったが、研修を受けている職員はいる。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか | | ○ | | アレルギーは利用前に必ず伺い、意識は高い。今指示書を必要とする子はいない。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか | ○ | | | |

【補足】

- No.1 もともと既存の施設なので、充分でないことは認識している。保育内容等で工夫している。
- No.3 バリアフリー化の配慮は、手すりの改善、転倒防止柵、トイレの改善等だが、必要な場所の必要な配慮を心掛けているが、これからも改善していく。
- No.8 研修はとても重要にとらえ、積極的に行っている。
- ・ 県主催の研修は、ほぼ 100%近く参加。
- <全国大会関係>
- ・ 児童育成
 - ・ 自動発達協議会
 - ・ その他
- <支援学校主催>
- ・ もう学校
 - ・ ろう学校
 - ・ 君津特別支援
- その他“食”“あそび”“ことば”“障害”等 毎年全職員が研修に参加。
- ・ 必要な研修は必ず参加（感染症、危機管理等）
- ◎その他

- ・おたより、感染症、避難訓練等のお知らせ
- ・近くの交番、消防署、警察等へのあいさつ
- ・日頃よりご近所の方との交流
- ・関係各所との連携

児童相談所、市子育て支援課－保健師－障害福祉課

- No.12 固定化しない工夫は特に春休み、夏休みは毎日している。
- No.13 一人一人にあったプログラムを考慮している。
- No.14 きめ細やかな設定につとめている。